

平成25年第3回燕市議会定例会  
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一 括 質 問	一 問 一 答
9月12日(木)	午前	1	中島 清一 議員	○		
	午後	2	樋浦 恵美 議員	○		
		3	本多 了一 議員	○		
		4	渡邊 雄三 議員	○		
13日(金)	午前	5	山崎 雅男 議員	○		
		6	齋藤紀美江 議員		○	
	午後	7	土田 昇 議員		○	
		8	小林 由明 議員		○	
		9	齋藤 信行 議員	○		
17日(火)	午前	10	長井由喜雄 議員		○	
		11	タナカ・キン 議員		○	
	午後	12	大岩 勉 議員		○	
		13	阿部 健二 議員	○		

平成25年第3回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発 言 者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
1	中島 清一	1. 市長の政治姿勢について	(1) ふれあいトークの感想について	①6月30日から市内3会場で「市長とのふれあいトーク」が実施された。市民の参加状況はどうであったか。また、市民からはどのような質問や要望が寄せられたのか。市長の率直な感想を聞きたい。
			(2) 県立武道館の誘致について	①第3回県立武道館基本構想検討会議が去る7月8日に開催された。誘致に名乗りを上げた5市による提案説明が行われたが、市長は設置場所の旧県立燕工業高校校舎の一部を使った合宿所整備と、地場産業体験型産業観光と一体のアフター武道大会を提起した。また、燕市は、新潟県の中心にあることやスポーツ熱の高い地域であることをアピールされている。市長の提案説明に対して全委員から質問が多く出されたとのことである。委員からの質問内容はどのようなものであったのか伺いたい。また、誘致に向けた手応えについて、現時点における考えを聞きたい。
		2. 空き家対策について	(1) 燕市空き家等の適正管理及びまちなか居住促進の進捗状況について	①市内全域の空き家、空き地の現況調査をした結果、単独の工場、作業所、物置などを含む空き家は全体で1044件、空き地は292か所が確認されたとのことである。今後、こうした調査結果を受けて危険度の詳細調査、所有者等の把握など実態調査が行われるが、今後の予定について伺う。 ②空き家の撤去費助成や改修費助成の制度については、どのように考えているのか。
		3. 公園の活用について	(1) みなみ親水公園でのバーベキュー利用について	①バーベキューのできる公園として「吉田ふれあい広場」があるが、休日になると、地元の吉田地区をはじめ、三条市や新潟市などから、多い日では20組ほどが利用しているという。 みなみ親水公園においても、バーベキューの利用を望む声が寄せられているが考えを聞きたい。
		4. 吉田地区の露天市場の消雪パイプ問題について	(1) 買い物客に水がかからない対策について	①吉田地区では、1と6の付く日に露天市場が開かれる。冬期間になると、買い物客の濡れ防止策として午前7時から午後3時までの間、消雪パイプの稼働を休止する。休止した場合、他の道路の消雪が止まり、住民から苦情が出されている。対策について伺いたい。
5. 平和教育について	(1) 広島平和式典に参加した中学生5名の感想について	①原爆犠牲者の冥福と核兵器の廃絶や世界平和実現を願う広島平和式典に、市内の中学校5校の代表5人が派遣された。平和がいかに大切かを、自分の目で見て、聞いてどのように感じたのか。得たものは何か伺いたい。		

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
1	中島 清一		(2) はだしのゲン閉架問題について	①はだしのゲンは島根県松江市の小中学校の学校図書館で、昨年12月以来閉架扱いになっていたが、松江市教育委員会は8月26日に臨時会議を開き、撤回を決めた。マンガ「はだしのゲン」について、本市としてどのように考えているか。
			(3) 非核平和都市宣言の看板設置について	①以前から看板の設置要望が出されているが、改めて市当局の考えを伺いたい。
2	樋浦 恵美	1. 成年後見制度について	(1) 市民後見人の育成について	①成年後見制度は、認知症の高齢者や、精神・知的の障がいにより判断力が十分でない方が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをして、その方を援助してくれる人を付けてもらう制度である。 燕市においては、利用促進のための、広報・普及活動と申し立ての経費等の助成を行う成年後見制度利用支援事業を実施している。制度の周知については、不足しているように感じるが、啓発・普及についてどのような取り組みをされているのか。 ②一人暮らしの高齢者が増加していく中、成年後見制度が重要になってくる事が考えられる。弁護士など専門職や親族による後見人だけでなく、社会貢献に意欲的な市民の支えも必要であり、市民後見人の育成を図るべきであると考えるが、燕市としてどのように考えていかれるのか。
			(1) いじめ問題について	①「いじめ防止対策推進法」が本年6月21日成立、6月28日公布、9月28日に施行される。 いじめの防止基本方針等として、国、地方公共団体及び学校の各主体による「いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針」の策定について定めること。 また、関係機関等の連携を図るため、学校、教育委員会、児童相談所、法務局、その他の関係者により構成される「いじめ問題対策連絡協議会」を置くことができること、とされているが、燕市としてどのように考えていかれるのか。 ②いじめなどに悩む児童生徒に対して、早期発見や心のケアを行うスクールカウンセラーの配置はされているのか。 ③児童生徒等に、いじめ問題に関するアンケート調査を行っているということであるが、その結果をどう捉え対応しているのか。
		2. 学校教育について	(2) 児童生徒の学力状況について	①全国学力状況調査の結果が公表された。 燕市の児童生徒の結果はどうだったのか。 ②その結果をふまえ、今後の学力向上への方針を伺いたい。

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
2	樋浦 恵美	3. 市民がより投票しやすい環境づくりについて	(1) 期日前投票について	<p>①期日前投票は、投票日当日、仕事などの用事で投票所に行くことができない場合、選挙人名簿に登録されている市区町村の期日前投票所において、前もって投票できる制度であるが、燕市の利用状況はどうか。</p> <p>②期日前投票所は、7月21日に行われた参議院選挙では燕市役所のみであったが、分水地区・燕地区の市民の方からサービスクーナー等でも期日前投票が出来るようにしてほしいという声を聞いている。今後も、燕市役所のみで行われていくのか。</p> <p>③期日前投票の際、宣誓書に必要事項を記入するが、市民の方から、書類に記入する際の負担を軽減してほしい、との声を聞いている。 宣誓書を投票所入場券の裏面に印刷して送付する自治体や、ホームページからダウンロードできるようにしている自治体が全国的に増えている。受付業務の簡素化や投票率の向上を図る観点から、燕市においても実施できないのか、考えを伺いたい。</p>
3	本多 了一	1. 市長の政治姿勢について	(1) 国政とのかかわりによる燕市政について	<p>①市長は、今の憲法を変えるという政治的動きについて、どのような見解をもっておられるか。</p> <p>②市長は、消費税の増税について、燕市の産業界の実態からどのように考えておられるか。</p> <p>③70歳から74歳までの医療費の自己負担が、1割から2割に上げられようとしているが、該当する市民に2倍の負担を与える事になるが、市長はどのように受けとめられるか。</p> <p>④社会保障の安心が投げすてられるとすれば、市民の命・くらしに責任を持つ立場の市長として、黙っているわけにはいかないのではないかと思うが、市長の政治的見解を求める。</p>
		2. 市営住宅の問題について	(1) 今後の市営住宅対策について	<p>①入居者の希望があっても、入れない市営住宅の現状をどう認識しているか。</p> <p>②新しく市営住宅を建設する計画はもっているのか。</p> <p>③老朽化した市営住宅はどうするのか。</p>
		3. 農政について	(1) TPPとの関係について	<p>①農林水産省の試算によれば米の生産は90%がなくなり、食料自給率は40%から30%に下がってしまうとしている。 TPPの最大の特徴は全く情報が伝わって来ない、関税撤廃からコメがはずせるのかどうか少しもわからない、燕市としてもこの情報を流すよう県を通して求める必要があるのではないか。</p>
			(2) 農業従事者の将来について	<p>①農業従事者の高齢化が進んで、後10年たったなら現在の米作農家はどうなるだろうか、火を見るより明らかだ。当局に要望するが、燕市の農家の皆さんがどのような心境におられるのか、意向調査を実施したらどうか提案するが、いかがか。</p>

発言の順序	発議する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
4	渡邊雄三	1. 高齢者の見守り支援体制について	(1) 高齢者の孤立死・孤独死を出不いたための見守り体制の強化について	①地域の見守り体制について、現在どのような取り組みをしているのか伺う。 ②緊急通報システムの利用の状況について伺う。 ③自治会長・民生委員の方の意識の持ち方に差があるように思えるが、その認識は？ ④地域ごとの自治会長・協力者等との情報交換・検証は、どのように行っているのか伺う。
		2. 災害対策基本法改正案成立について	(1) 本市の災害時要支援者の避難計画の現状について	①災害対策基本法改正が9月から施行されるが、本市としてどのように取り組んでいくのか伺う。 ②自主防災組織率の現状と、活動状況・地域格差が、なぜ起きているのか、その認識は？ ③高齢者・障がい者の要支援者の地域別の登録者数について伺う。 ④要支援者の登録者を増やすために、現在、実施している内容について伺う。 ⑤要支援者・障がい者の方々の避難場所は、どのようになっているのか伺う。
		3. 介護予防・健康増進運動について	(1) 健康増進策の提案について	①介護予防運動や健康増進運動・健康セミナー等に参加した時に、ポイント化する運動を展開し、この運動を健康マイレージ運動として、介護予防・健康づくりを目指す運動として提案したいが、考えを伺う。
		4. 自動体外式除細動器(AED)設置について	(1) 自動体外式除細動器(AED)の効果的な設置について	①突然の心肺停止状態になった際、一刻を争う状況を考えると、設置場所を市民に分かりやすく公表することは大切であると思うが如何か？ ②最も憂慮すべきは、公共施設や銀行・個人病院などに設置されている場合、休日や閉店・閉館後、夜間には使用することができない。市内のコンビニエンスストアにAEDを設置することを提案したいが考えを伺う。

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
5	山崎 雅男	1. まちづくり協議会について	(1) 13 地区まちづくり協議会のあり方について	<p>①まちづくり協議会が、広域的に地域の活性化として頑張っており、取り組んでいくには、自発的・能動的な活動が重要。まちづくり協議会に対する位置付けと今後の方向性について伺う。</p> <p>②市民と行政の協働のまちづくりについて、まちづくり協議会の意義と協議会に何を望むのか伺う。</p> <p>③13 地区まちづくり協議会の現状と課題に対する認識について伺う。</p> <p>④まちづくり協議会と自治会との連携、関わりについて伺う。</p> <p>⑤吉田地区の 4 まちづくり協議会合同懇談会に出席したなかでの感想と捉え方について伺う。</p>
			(2) まちづくり協議会の補助金等について	<p>①まちづくり協議会活動に対する補助金と中長期的な捉え方、方向性についての見解を伺う。</p> <p>②13 地区まちづくり協議会の補助金等を活用した事業内容と、まちづくり協議会から市への提言や要望内容と市民に対する意識付けと啓発について伺う。</p>
		2. 空き家・空き地の適正管理について	(1) 事前現況調査について	<p>①5月1日より「燕市空き家等の適正管理及びまちなか居住促進条例」に基づき事前現況調査の結果、空き家で、燕地区 534 件・吉田地区 308 件・分水地区 202 件で空き家総数 1044 件。空き地で、燕地区 203 件・吉田地区 44 件・分水地区 45 件で空き地総数 292 件の事前現況調査結果がでた。</p> <p>近隣に迷惑をかけるような管理不全の空き家件数と倒壊あるいは崩壊する可能性を秘めている危険状態の空き家件数、そしてごみ不法投棄等衛生上の問題の空き地を含めどの位なのか。</p> <p>また、空き家・空き地の所有者所在地の現状と今後の対応、課題について伺う。</p>
			(2) 市としての対処・対応について	<p>①空き家・空き地の放置原因の捉え方と期間はどの位なのか、把握されているか伺う。</p> <p>②市民、近隣住民からの空き家・空き地に対して、市への苦情等と対処方法はどうか伺う。</p> <p>③老朽化した空き家は、防犯・防災等や景観、住環境に及ぼす影響は非常に大きいですが、市としての認識と対応について伺う。</p>
			(3) 「たのうら燕」について	<p>①市所有物件で、近隣自治体、住民に迷惑をかけ続けている廃虚化した空き施設の「たのうら燕」の現時点の動きと、今後の動向について伺う。</p>
		3. 国道 116 号バイパス整備について	(1) 国道 116 号バイパスの今後の見通しについて	<p>①燕市吉田地区内、延伸約 11 km 区間未開通部分の整備促進に向けての進捗状況と今後の推進計画、見通しについての認識を伺う。</p> <p>②国道 116 号バイパス整備に向けて、これまでの諸問題と課題は何か伺う。</p>

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	齋藤紀美江(一問一答方式)	1. 子育て・子育て支援について	(1) 学校教育基本計画にある「目指す子ども像」の取り組みについて	①目指す子ども像として「知・徳・体のバランスのとれた、心豊かで生きる力がみなぎる子ども」を掲げている。その中で目標の1に「生きる力がみなぎる子どもを育てる」とある。取り組みは進んでいるのか。実態をどう評価しているか。
			(2) 児童クラブ・児童館の設置について	①教育基本計画の中に、児童クラブ・児童館の設置についての記述がある。この計画を定める時のパブリックコメントにも様々な意見が寄せられていた。市民の関心は高い。どのように取り組もうとされているのか。 ②秋葉町児童クラブの課題解決には、世帯やこども数の増えている水道町4丁目地内に児童館を建設し、大関小学校と西小学校の共同の児童クラブを設置するのが、財政的な面からもバランス的にみても、費用対効果として有効に思うがどうか。
			(3) 子育て環境や教育環境の基本的な考え方について	①先進的な自治体では、園舎や学校施設の環境について基本的な指針を設けて取り組んでいる。建物本体の環境整備のみならず、周りの環境整備についても取り組まれている。燕市としてはどうか。燕保育園の環境についてはどう思うか。
			(4) 県立吉田病院のこども病院特化について	①新潟県には「こども病院」がない。「県立吉田病院」には特別支援学校も併設されているし、こどもの診療に関しては、その診療科目の数や内容など評価が高い。「県立のこども病院」として特化した病院となれば、安心して子育てのできる市としてのまちづくりができると、これまでも言ってきたし、取り組みたいと答弁もあった。しかし、なんの進展もないようだが、どうなのか。
		2. 体育施設の使用料について	(1) 体育施設の使用料の見直しについて	①体育施設の指定管理が提案されているが、その前に使用料について、しっかりとした根拠に基づいて定める必要があるのではないかと。今の使用料の計算根拠はどのようなものか。
		3. 空き地の管理及び市有地の管理について	(1) 市有地の管理責任と、企業や個人の空き地の管理の対応について	①農業委員会は、農地の管理についてパトロールを実施し、各農家に対して適正な管理をお願いしている。そのときに目につくのが市有地であったり、企業や個人の空き地などがある。市有地の管理は所管部局が行っていると思うがどうか。企業や個人の空き地についての管理は、どのような体制の下で情報が伝えられているのか。
			(2) 長善館史料館の裏の土地利用について	①長善館史料館の墓地の裏手に購入された土地があるが、利用されないまま、草地となっている。当初から無理な購入だと私は思っていたが、今後どのように取り扱っていくのか。土地の管理については、近隣住民から苦情も寄せられている。売却なども考えられるのではないかと。(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
6	齋藤紀美江 (一問一答方式)	4. 行政運営 における ルールの考 え方につ いて	(1) 行政運 営及び市 民活動に おける、 ルールの とらえ方 について	①若者会議におけるルールの取扱いについて、どのように考えているのか。当初の議会説明や市民に広報したことと違っているが、ルールについての認識はどうか。 ②市民の自主的な活動を広めたい、自主的にまちづくりに取り組んでほしい、そういう人材を育てたいと若者会議やまちづくり協議会などをはじめ、様々に取り組まれているが、市民活動に対しての共催や後援に対する支援の仕方やそのルールに対して、どのように考えているのか。
7	土田昇 (一問一答方式)	1. 市長の政 治姿勢につ いて	(1) 市政運 営につ いて	①最近の市政運営の中で感じていることは、中間報告をしないで結果報告で決定するような場合が多くなっているように感じるが、以下のことについて伺う。 8月8日の全員協議会の報告(飲酒運転)の中で過去の事例について参考にされたのか、どのように判断されて決定されたのか伺う。 ②最高責任者としての立場を考えて、自分に厳しい判断は考えなかったのか伺う。 ③裁判等の内容の中間報告をするべきと考えるが、その点についても伺う。 ④8月31日付けの新聞報道の内容(高速道路インター付近の駐車場の件)についても伺う。(議会軽視と考えなかったか)
		2. 原発問題 について	(1) 原発の安 全性につ いて	①泉田県知事は6月県議会の中で、福島第一原発の問題に関連して、県民の安全、安心を守る立場から「事故の検証と総括がない中で再稼働することになれば、同じことを繰り返す恐れがあり、これは人類として最高の恥ではないかと思っている」と答弁しています。 最近では、テレビに出演してまで原発問題を取り上げて発言しています。そのような姿を見て、市長はどのように感じているか伺う。 ②8月8日付けの日報の報道によれば、柏崎市と刈羽村は東京電力柏崎・刈羽原発6号機、7号機にフィルター付きベント設備を新設することについて事前了解したと報道されました。(フィルター付きベントについては6月議会でも申し上げましたが) ベントを開ければ、放射性物質が放出されるにもかかわらず、県民への説明責任が十分に果されていないとし、柏崎市の会田市長は「再稼働を認める段階ではない」と強調しています。 そこで伺いますが、「安全協定」の運用要綱第2条(3)の中で、発電所の原子炉施設及びこれに関連する施設等の新設及び増設並びに重要な変更に関する事項に該当すると思うが、その見解について伺う。 (次ページへ続く)



発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
7	土田昇 (一問一答方式)		(2) ヨウ素剤の配布について	①原子力規制委員会は、ヨウ素剤の配布を半径 5 km から 30 km の範囲を中心とした自治体は、ヨウ素剤を備蓄して事故後に配布するとしています。 ヨウ素剤の有効期間は 3 年のため、自治体は定期的に住民説明会を開いて、新しいヨウ素剤を配布する必要があるとしていますが、市の現状と今後の対応について伺う。
			(3) 浄水場の汚泥対策について	①6 月議会の答弁では、「管理費としてトンパックへの詰め込み、放射性物質測定等の業務委託費を支出しています」としているが、その内容について伺います。 と同時に、放射性物質を含む汚泥等の処理費用については、「放射性物質を放出した東京電力に補償請求を行っていきます」としていますが、6 月議会以降、どのような状況になっているのか、今後の見通しも含めて伺う。
		3. 農業問題について	(1) 補助制度の創設について	①今年の米価は、コシヒカリ 30 kg で平均 6,850 円前後になってしまいました。このような中で、農家経済は大変厳しい状況になってきています。高齢化や高い農機具の購入にも限界で、来年は離農するような農家もでてくるような状況になってまいりました。 そこで伺います、来年度の予算で、新潟市や加茂市のように補助制度の創設は考えられないか伺う。
			(2) 青年就農援助金制度について	①昨年の新規就農者調査によると、全国で、39 歳以下の青年新規就農者は 15,030 人となり、前年度より 5.7% (810 人) 増えたと報道されました。 その理由として青年就農援助金制度が大きく関係していると思いますが、燕市の該当者数は、現在どのような状況になっているのか、また今後の見通しも含めて伺う。
		4. 指定管理について	(1) 産業会館の指定管理について	①旧吉田町が工業立町を宣言して、産業会館を大切に管理運営を行ってきましたが、指定管理者導入以降、除雪の問題、樹木の問題、雑草の問題等も含めて、市が管理するのか、指定管理者が行うのか明確に答弁を求めます。

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
8	小林由明 (一問一答方式)	1. 民間活力導入による、今後の市役所業務について	(1) 指定管理者制度導入等、民間活力導入と市役所業務の今後について	<p>①民間に蓄積された、高度で専門的なスキルを積極的に導入し、また、民にできることは民に任せ、行政サービスの向上を図るべきと考えている。 今後の民間活力導入について、どのような構想をお持ちか伺いたい。</p> <p>②定員適正化や行政サービス向上など、今後の市役所業務を考えるうえでも、民間活力導入計画を立て、その実行程の策定に取り組む必要があると思うがいかがか。</p>
			(2) 事業者の育成と業務の質の向上について	<p>①民間活力を導入するにあたり、質の高いサービスを提供できる業者の確保が必要不可欠であるが、これは同時に市内事業者育成の機会であり、住民力向上の機会でもある。 すでに外部委託している業務も含め、今後の民間活力導入計画を策定公開し、事業者や住民に周知し、それら業務を受託できる能力を身につける機会を提供すべきと思うがいかがか。</p> <p>②業務の発注後も継続的に事業者の育成をするため、市が発注した業務が確実に行われ、高い水準の満足度を得られるものかを評価し、当該業者に対し常に質の向上を求めて行く必要がある。 市は発注業務について、点検・評価・指導などを行っているか。</p>
			(3) 広報戦略やマーケティングへの注力について	<p>①住民への情報提供、市外への情報発信、行政需要の把握等、広報戦略やマーケティングを重視し活用することは、効果的効率的な業務の執行を推進し、内に対しては住民ニーズに応えるため、外に対しては市のイメージを構築する極めて重要なものと考えている。 今後、それらへの取り組みにさらに注力すべきと思うが市はどのように考えるか。</p> <p>②より効果的効率的な広報戦略やマーケティングの実現のために、民間事業者の起用を考えられないか。</p>
		2. 教育、子育て問題について	(1) 教育環境、子育て環境向上のための取り組みについて	<p>①現在燕市では、子どもの学力向上や、教育環境、子育て環境の向上に注力している。 それらの向上には、周囲の大人の協力が必要不可欠であると考えているが、子どもたちを取り巻く大人をどのように巻き込み、どのように協力を得て、どのような成果を出したいと考えているか、具体的に伺いたい。</p> <p>②教育行政が抱える課題と、教育現場や子育て世代が抱える悩みは、教育委員会、教員、保護者などが相互にその立場を理解し、共にその課題解決に取り組むべきと考えている。 つばめの教育問題を話し合う場として、教育委員会、教員、保護者などで構成する協議体、「つばめ教育会議」を設置していただきたいがお考えを伺いたい。 (次ページへ続く)</p>

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	小林由明 (一問一答方式)	3. 若者によるまちづくりの場について	(1) つばめ若者会議の今後について	<p>①つばめ若者会議発足から、未だ3カ月ほどしか経過していないが、そのメンバーの活発な活動が聞かれるようになった。</p> <p>現在までのつばめ若者会議の活動や、周囲へのその影響はどういったものがあるか伺いたい。</p> <p>②既に表れ始めているように、つばめ若者会議で知り合ったメンバー同士が、つばめ若者会議としての活動以外でも、自主的にまちの活性化に取り組んでいくことが今後も予想される。</p> <p>今後のつばめ若者会議への支援について、どのようにお考えか伺いたい。</p> <p>③主管課以外の部課長や市関係団体にも、つばめ若者会議への積極的関わりを持っていただくことが必要であると考えているが、市はどのように考えているか。</p> <p>また、その機会として、懇談会、交流会を開催していただきたいがいかがか。</p>
		4. 都市整備と生活環境について	(1) 下水道の接続率向上による生活環境の向上について	<p>①下水道の接続率向上のために、今後どのような取り組みを行っていくか。</p> <p>②生活保護世帯や低所得世帯に向けた、下水道接続費、水洗トイレ設置費用等の助成制度を作るべきではないか。</p>
9	齋藤信行	1. 学校施設の修繕について	(1) 分水北小学校のプール専用トイレについて	<p>①燕市では、子どもたちの安全性を最優先に耐震補強を目的とした改築や大規模改造事業を進めている。</p> <p>予算の確保が厳しいことは理解しているが、分水北小学校のプール専用トイレが修繕されず、現在使用できない現状にあることについて、教育委員会の方針を伺う。</p>
			(2) その他の小学校プール及び校舎や体育館以外の学校施設について	<p>①その他の小学校プールの現状と改築や大規模改造事業を優先的に進めていることから、附属施設の対応ができていないと聞いているが、現状について伺う。</p>
		2. 学校プールについて	(1) 学校プール授業の利用状況について	<p>①学校プールについての授業について、各学校また小学校・中学校で授業利用で違いがあるのか伺う。</p> <p>②夏休み中の利用状況についても、各学校の取り組みについて伺う。</p>
			(2) 学校プール授業の位置付けについて	<p>①学校プールについては、各学校とも多くの予算を使っていると思うが、先生方の授業に対する認識と教育委員会のプールに対する方針を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
9	齋藤 信行	3. 小・中学校の土曜授業について	(1) 土曜授業の市の取り組みについて	①文部科学省は、来年度から、小中高校生の学力向上に向け、土曜授業を行う公立校への補助制度を設ける方針を決めた。 地域の人材を講師にするなど、月1回以上実施することを想定。地域と学校のつながりをより強めることも狙う。講師への謝礼や教材費など、土曜授業に必要な費用を補助して実施自治体を後押しし、来年度から3年間で、全公立校での土曜授業実施を目指すと言うことですが、市・教育委員会の取り組みを伺う。
		4. 学力向上について	(1) 小・中学校の学力について	①市小・中学校の学力について、国・県の中での位置付けはどうか伺う。
			(2) 脱ゆとり教育について	①市小・中学校は、教育立市宣言以後、ハード面・ソフト面でいろんな施策を行ってきたと思うが、脱ゆとり教育の教育委員会の方針を伺う。
		5. 健康寿命について	(1) 市の取り組みについて	①平均寿命は世界の中でトップクラスであるが、今後、高齢者が増加する社会の中で健康なお年寄りが、他の市町村と比べたら燕市はどの位置なのか伺う。 ②健康なお年寄りになって、ピンピンコロリで亡くなりたいと思っている。私はお年寄りの方々と話をしていて感じました。若い人のやっかいになりたくないの、いつもお参りをしているそうです。 そこで、市では、具体的な施策などがありましたら伺う。 ③健康な高齢者のためのサークル、生涯学習の取り組みについて伺う。
		6. 新庁舎周辺の暴風雪・除雪・消雪対策について	(1) 暴風雪対策について	①新庁舎周辺は、かなり吹きだまりができると想定されますが、対策を伺う。出入口の風よけも考えているか。
			(2) 道路除雪について	①新庁舎周辺の道路除雪について伺う。(駐車場も含む)
			(3) 消雪パイプについて	①新庁舎及び周辺の消雪パイプの現状と今後の予定について伺う。

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
10	長井由喜雄 (一問一答方式)	1. 非核平和都市宣言と関連事業について	(1) 非核平和都市宣言に対する市長の姿勢と宣言塔の庁舎敷地内設置と宣言看板の市内設置拡大について	<p>①「非核平和都市宣言」について、宣言市としてその意義についてどう捉え、宣言を活かす取り組みについてどう考えるか、市長の姿勢について伺う。</p> <p>②燕市は「新市誕生を機として、決意あらたに世界の恒久平和を願い、ここに〔非核平和都市〕を宣言します」と、平成18年12月25日に「非核平和都市宣言」を行った。</p> <p>これまで、燕、吉田庁舎には宣言塔が、分水庁舎には宣言看板が掲げられてきたが、新庁舎敷地内への宣言塔設置には、否定的答弁が繰り返されてきた。</p> <p>しかし、新市誕生のシンボルとも言われてきた新庁舎に、「新市誕生を機として」宣言された非核平和都市宣言の宣言塔を設置することは、宣言に沿うものではないのか。非核平和都市宣言を行った燕市として、庁舎敷地内への宣言塔設置を求めるがいかがか。</p> <p>③さらに、市内に宣言塔や宣言看板などを拡大設置すべきと考えるがいかがか。</p>
			(2) 広島に派遣された中学生の報告会について	<p>①平成20年から、非核平和都市宣言推進事業の一環として実施されてきた広島平和記念式典への中学生派遣では、派遣された中学生の感想がまとめられた「実施結果報告書」がホームページで公開され、各中学校で派遣された代表が報告会を開いていると聞いている。</p> <p>市をあげて非核平和を宣言し、これに基づく派遣事業であることから、式典に参加し平和について学んだその成果は、もっと広く市民にも伝えられるべきものではないか。</p> <p>新庁舎のつばめホールで市民に向けた報告会を開き、平和学習の成果を伝えてほしいと考えるが、教育委員会に伺う。</p>
			(3) 被曝楠の木の市役所敷地内への植樹について	<p>①「被曝楠の木」は、長崎に原爆が投下された時山王神社で被曝した楠の木で、奇跡的に2年後新芽が芽吹き、非核平和のシンボルのひとつとして全国にその子孫となる楠の木の植樹が広がっている。燕市でも原水爆禁止燕市協議会などが新庁舎敷地内への植樹を提案してきたが、市の見解は「新潟県内、燕市では育たない」としてきた。</p> <p>しかし、「育たない」と言われてきた「楠の木」は燕市内で数十年来個人の庭などで樹高7～8mというもので確認がされている。非核平和の一環から植樹について異論を唱えていないのであれば、燕市でも楠の木が育っていることを認め、新庁舎敷地内への植樹について検討するべきと思うがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	長井由喜雄(一問一答方式)		(4) 平和市長会議と日本非核宣言自治体協議会への参加について	<p>①鈴木市長就任後、平和市長会議に参加し、他の非核平和を願う自治体と連帯する立場となった。これまでの具体的活動について伺う。</p> <p>②日本非核宣言自治体協議会に加盟することを提案したい。同協議会は1984年に設立され「全国、全世界の自治体に核兵器廃絶、平和宣言を呼びかけ、自治体間の協力体制を確立する」として、被爆体験DVDの作成配布や、研修会を実施して会員自治体の平和事業に対する支援・協力の事業、そして親子記者を募集して平和事業の発信者としての取り組みを行っている。燕市もこれに参加することにより、宣言市としての活動を発展的に展開することが期待できるのではないか。</p>
			(5) 非核平和都市宣言推進事業拡大について	<p>①現在燕市が行っている「非核平和都市宣言推進事業」は、広島への中学生派遣、原爆パネル展の開催、被爆アオギリの植樹、2カ所の非核平和都市宣言塔だけである。これまでやってきたことを発展的にと考えるだけで、派遣人数の拡大、パネル展の学校巡回展や公民館巡回展、被爆アオギリの学校などへの植樹カ所拡大などが考えられるし、これまで広島へ派遣された子どもたちや職員などから「つばめ平和大使」となってもらうことなどが考えられる。市が宣言都市として能動的・積極的に、既存の、そして新しい事業を行っていく立場に立つことを提案したいがいかがか。</p> <p>②市長は、基本的にこの「非核平和都市宣言推進事業」についてどういう考えをもっているのか。</p>
		2. 防災の観点と、「川」を活かした取り組みについて	(1) 簡易ボート所有者との協力体制の確立とEボートの配備拡大について	<p>①燕市は、大河津分水路、信濃川・中ノ口川、大通川の氾濫時の水位を示したハザードマップを作成しているが、避難箇所を明記しただけのもので実際の水位上昇に伴う救助が課題となってくる。ハザードマップに示された水位上昇の目安を、対象市域に案内板などで周知していくことが必要と思うがいかがか。</p> <p>②川の氾濫などにより、市内に水が流れ込んで水位が上がった状態となった時には、各家庭や会社で働く人たちが孤立してしまう。救助するにはボートが必要となるが、その備えを進めていくことが必要ではないか。一つはEボートの配備を進めていくこと。二つは、エンジン付きのボートを所有している市民に協力を呼びかけ、災害時の活用について協力を要請していくことが考えられる。</p> <p>住民の避難という点から自治会を単位と見ることと、日中などの場合、高い建物を持つ企業からも協力を得て、いつでも、どんな時間帯でも対応できる準備を進めていく必要があるのではないか。</p> <p>Eボートの購入配備を自治会とともに企業にも協力の要請を行い所有・保管・災害時の救援活動に参加してもらう展開を考えてはいかがか。(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	長井由喜雄 (一問一答方式)		(2) 水害等を意識し、環境資源としての川を活かしたイベントについて	<p>①水害は言うまでもなく、生活に影響を及ぼすマイナス的要素だが、平常時は燕市に流れる大河津分水路や信濃川・中ノロ川・西川などは自然の環境資源として活用していくことを考えてはいかがか。</p> <p>大曲河川公園ファンクラブが毎年行っている川下りイベントは、川に親しむことと同時に、ボートに慣れ、ボートで移動するなどの訓練としても有効なものとなっているのではないかと。イベントを担当された都市計画課はこのことをどう思っておられるか。</p> <p>市内河川を所管する都市整備部および観光資源として見た場合の活用については、商工観光部としてはどういう考えを持つか伺う。</p>
11	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 新庁舎について	(1) 100年コンクリートについて	<p>①開庁式のあいさつで、副市長は多くの来賓の前で新庁舎は建設にあたり100年コンクリートを使用してた説明を行いました。</p> <p>しかしそれ以後、広報にもその様な説明はされていませんし、市長のふれあいトークでも話がないのです。</p> <p>新庁舎は防災の拠点ですし、耐久性の高い長寿命化の100年コンクリートを使用して建設したことは、当然評価の対象になると思います。</p> <p>開庁以来、新庁舎についての行政視察の件数について、その時に100年コンクリートの説明はされているのか、お聞きします。</p> <p>②全国の庁舎及び公共の建造物で、100年コンクリートを使用した事例はあるのか、お聞きします。</p>
		2. つばめ若者会議について	(1) 参加者の応募状況とメンバー構成について	<p>①25年度の新規事業です。</p> <p>この事業の運営等委託料が750万円と大きいこともあり、3月定例会の予算審査では5人の委員から質問がありました。</p> <p>その時の説明では、20代、30代の市民の皆さんを対象に、20年後の燕市の将来ビジョンを考えてもらうための会議である。</p> <p>しかし、スタート直後から説明と違うことが明らかになってきました。</p> <p>20代、30代の市民が対象と言いながら40代や50代、または市外の人も参加しているということです。</p> <p>どうしてこんなことになっているのか？参加人数やメンバーの構成等についてお聞きします。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発 言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
11	タナカ・キン (一問一答方式)	3. 子宮頸がんワクチン接種について	(1) ワクチン接種後の副反応問題について	<p>①今年度から任意接種であったものが、定期接種に変更されました。 しかし、接種後の副反応の被害が拡大したことや、全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会などの働きかけにより、厚生労働省の専門部会は、6月14日にワクチン接種の「積極的な勧奨を一時控える」との方針を決定しました。 それを受けて新聞やテレビ、雑誌などのメディアは、子宮頸がんワクチン接種の危険性を指摘するようになりましたが、それでもまだワクチン接種を受けている児童がいるようです。 今年度のワクチン接種の対象者数と実施状況についてお聞きします。</p> <p>②6月14日以前と以後で、接種する児童数の変化についてお聞きします。</p> <p>③今回の国の決定について、市は保護者や児童に対して、どのような説明をしているのかお聞きします。</p> <p>④保護者から接種についての相談があったとき、市の窓口及び医療の現場ではどのように指導しているのかお聞きします。</p> <p>⑤文科省の指導で、副反応被害の実態調査を行ったということだが、市の被害状況についてお聞きします。</p>
		4. 事業所LED化設備設置費補助金事業について	(1) 24年度と今年度との事業内容について	<p>①今年度は、24年度からの3ヶ年継続事業の2年目です。昨年は、当初予算500万円をスタートしましたが、6月議会の補正で1,000万円を追加するという過去には例のない手法で事業を進めました。 決算額は、1,455万1,000円でした。今年度は、当初予算1,000万円をスタートしています。 補助金交付の決定にあたり、24年度と25年度の違いについてお聞きします。</p> <p>②今年度の実施状況についてお聞きします。</p>



発言の順序	発 言 者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
12	大岩 勉 (一問一答方式)	1. 平成 25 年 度施政方針 の取り組み について	(1) 新庁舎の 開庁から行 財政の取り 組みについ て	①事業のスクラップ・アンド・ビルドや施策の重点化の 取り組み状況について伺う。 ②行政機能の一元化に対し、「熟慮断行」されているか伺 う。
			(2) わかりや すく、使い やすい窓口 業務の推進 状況につい て	①分野横断の連携体制の構築、きめ細やかな対応につい てどのように行われているのか伺う。 ②「わかりやすく、使いやすい」窓口業務の推進とある が、実現状況を伺う。 ③指定金融機関派出所の業務は、市民への窓口業務サー ビスは考えているのか。また、協定書はどのような内 容なのか伺う。
			(3) つばめ若 者会議の設 置策定につ いて	①若い世代の考えや力をまちづくりに活かすため、20 代、 30 代を中心とする若者の構成について伺う。 ②朝の時間を有効に活用して、職員自ら自分磨きの講座 を行ったかどうか伺う。
		2. 選挙制度 について	(1) 期日前投 票について	①期日前投票は、投票率が低下する一方でも他市町村で も増加しているが、燕市の現状はどうか伺う。 ②期日前投票所は、何ヶ所設置されたか伺う。 ③インターネットを使った選挙運動の解禁に伴った行動 や投票先を決める際の選択で、参考にした情報はどう 思われているか伺う。
			(2) 開票終了 時間につい て	①第 23 回参議院選、開票終了予定時刻見通しでも、県下 で一番遅いのはなぜか伺う。 ②選挙管理委員会事務局の決断力が、欠けているのでは ないか伺う。
			(3) 投票時間 の繰り上げ について	①県内 30 市町村 37 開票所がある中で、繰り上げ投票を 行う弥彦村や出雲崎町など 6 町村あるが、燕市も午後 6 時までとしたらどうか伺う。
		3. 教育環境 の向上につ いて	(1) 学校給食 センターの 建設整備に ついて	①安全で安心な学校給食を提供するために、どのような 事に注意し、施設整備を考えているのか伺う。 ②1 日に出る残飯の量は、何リットルでどのくらいなのか 伺う。
			(2) 教職員の 指導力向上 のため、研 修事業につ いて	①先進校の視察研修や教員向けのキャリア教育研修を計 画的に取り組みとあるが、行われているのか伺う。
			(3) 燕子ども 応援おひさ まプロジェ クトについ て	①「燕子ども応援おひさまプロジェクト」事業を、教育 現場では学習に取り入れているのか伺う。 ②市内の小中学校など 11 施設合計で、毎時 550KW の太陽 光発電パネルを設置予定していることを伺う。 ③電力会社は、一定の価格で再生可能エネルギーでつく られた電気の買取りが義務づけられており、国民（燕 市民）も「賦課金（サーチャージ）」として電気料金の一 部負担も話されているか伺う。

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
13	阿部 健二	1. 市政について	(1) 市政における議会の位置について	<p>①日本の地方自治体は二元制で運営されているが、欧米の地方自治体では議院内閣制をとる国が多く、フランスでは、議長が首長を兼ねて行政責任を持ち、アメリカでは、議会が民間人らを行政の実質責任者に指名するシティマネージャー制度をとっている自治体が多いと聞き、中島正郎の『議会』という本の“地方議会の権限”の項では「府県や市町村の団体意思と機関意思の決定を行うために、それぞれ議会が置かれている」（憲法 93, …）と書かれている。</p> <p>と言うことは、地方自治体の意思を決めるのは議会であり、首長は「議会で決められたことを執行する立場」とであると解釈できると思われるが如何か？</p> <p>②「首長は明治憲法下での制度以来の議会に対する優位を保持したまま、戦後、新たに公選の長という“政治的優位”を併せもつようになった」と言われ、「国が認めた事業には、一方的に首長に執行権があるが故に首長の優位は確固たるものになっている」とさえ言われている。</p> <p>その結果、地方での議会の存在意義が矮小化したと思われるが如何か？</p> <p>常々「議会を尊重している」と言われている市長は、いま憲法改正の俎上に上っている自民党案における「地方自治体」が“中央集権化”に傾いていることをどう思われるか？また、国・県の市長会での反響は？</p>
			(2) 市という官僚組織とパーキンソンの法則について	<p>①第2次大戦後、英国が次々と植民地を失う中、英国の植民地省が職員数を増やし続けたことから書かれたのが「パーキンソンの法則」だと言う。</p> <p>一昨年、ある納税者団体が、会員数が減る中、人件費を増やしている予算書を提示されて戸惑ったことがあるが…いま、盛んに指定管理者制度を取り入れている燕市が、出先機関から市の職員を引き上げて市の職員の仕事を減らしながら、おそらく人件費が減らないであろうことに「パーキンソンの法則」が当て嵌まるやに思えてならない。</p> <p>まさに、パーキンソンの第一法則「公務員の数は、なすべき仕事の軽重や仕事の有無に関係なく増加する」に似て見えてならないが如何か？</p> <p>②パーキンソンの第二法則は「国の財政では、まず支出を決定してから収入を定める“悪しき慣行”があるため、課税は無限にあがる」、いわゆる「カネは入っただけ出る」というもので…燕市の国保運営も正にその体である。</p> <p>「入るを量りて出ざるを制す」ための分野横断的な企画、即ち、市民の病気予防への計らい（例えば須坂方式の保険推進員の配置やサイクリングロードの建設計画など）は、いつから取り組まれるのか？</p> <p>「カネが足りないから増税する」…それが燕市の分野横断的な企画か？</p> <p>③以前、水道料金の減免措置は合併によって削除されたと聞いたが…漏水による水道料金の減免についてを問う。 (次ページへ続く)</p>

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
13	阿部健二	2. 指定管理について	(1) なにゆえ指定管理に移行するのか？	①先の議員懇談会で提示された「道の駅の指定管理者制度について」には、道の駅周辺施設の一元化による“事務の合理化”が謳われていたが… 指定管理以前に、周辺施設の一元化を考えたことはあるか？ 島上農村環境改善センターを、今回の指定管理に組み込まなかったのは？ 指定管理者制度を採用した場合、税収に変化があるのか？ 道の駅周辺の（市としての）将来的展望は？
			(2) 指定管理者制度から生ずる代理人問題について	①指定管理者制度を採用するにつれ、依頼した側と指定管理を受けた側の利益が、必ずしも一致しないことが考えられる。（情報の非対称性） その違い（代理人問題）に対する監視・評価は、どのようになさるのか？
		3. 産業について	(1) 構造不況下における製造業の立て直しについて	①先般、三市議員研修会の講演を聴いて、改めて、この地区の製造業に構造不況の深刻さを痛感しながら（加茂市議が問うていたように）「議会として行政としてやるべきことは何か？」だと思った。 市として、この地区の製造業の今後を、どのように考えているか？
			(2) 産業としての農業について	①その三市議員研修会の講演で、ことに興味深かったのが『新潟県産品の全国でのベスト5』で、全国第1位が「コメ」、全国第2位が「栽培キノコの産出額」、全国第3位が「清酒の出荷額」と、すべて農産品だったことである。 6月議会でも申したように、燕市も（例えばオランダのように）“農業を産業”として取り組めないか？～である。